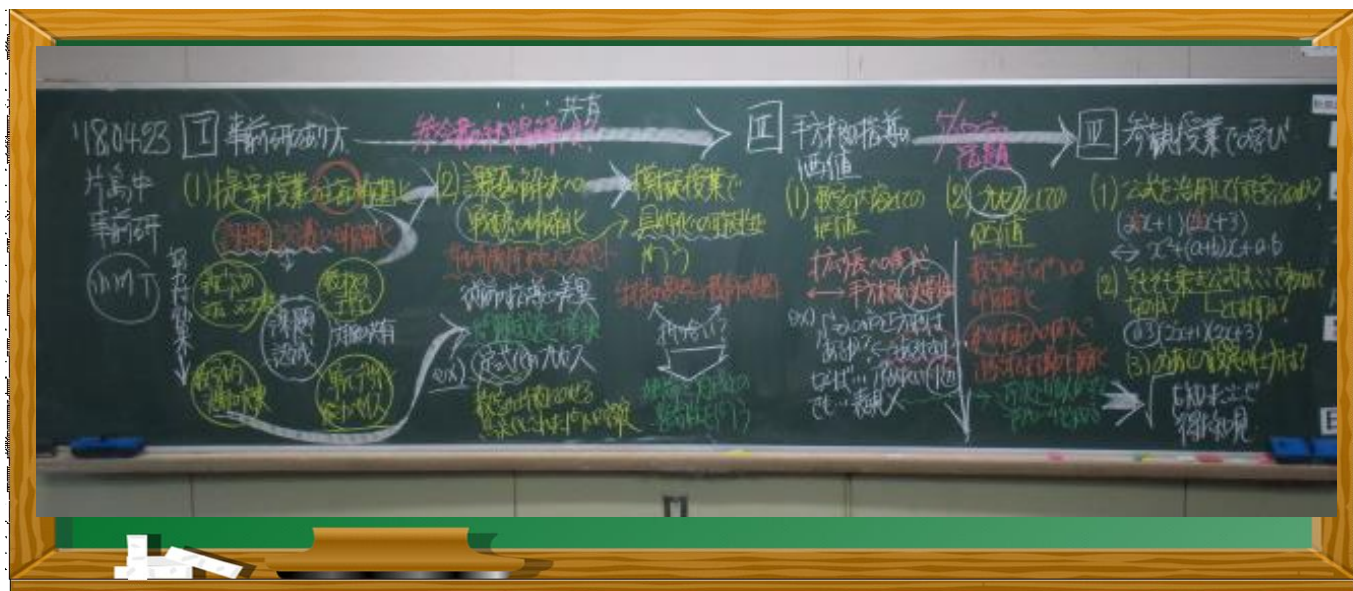


# 授業者も！参加者も！学ぶ!!高まる!!広げる!! 西部の算数・数学の未来へのバトンをつなぐ

平成30年5月1日(火)

西部教育事務所

片島中学校で、4月23日(月)の午後、第1回教材研究会が行われました。



## 今回の模擬授業

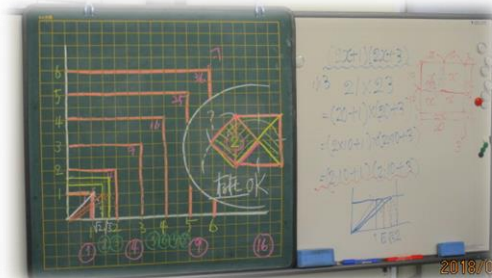
宿毛市立片島中学校 3年「平方根」 小川 力 教諭

方眼紙を使って作図した面積の異なる正方形について、「面積」と「一辺の長さ」に着目させ、「 $2\text{cm}^2$ の正方形の1辺の長さを考える」ことを通して、「平方根の必要性」に焦点を当てた模擬授業でした。実測や計算機で1辺の長さを求めていき、無理数へ数を拡張させなければいけない必然性を感じさせたいという教師の思いが伝わってきました。

その後のリフレクションでは、齊藤一弥学力総括専門官から話があり、5月25日(金)の授業研究会に向けて、以下のような授業づくりを進める示唆をいただきました。

- ① 事前研究会(教材研究会)の在り方について、新学習指導要領の主旨や授業デザイン、数学的活動の充実など、授業者がもっている課題を明確にし、参観者とその課題を共有することが大切であること
- ② 定式化(正方形から平方根を発見する)へのプロセスを大事にすること、特に、焦点化された「問い」をしっかりと設定すること
- ③ 数を無理数に拡張していくことへの関心と平方根の必要性に価値付けを行うこと

この日は、数学科以外の片島中学校の先生方や、他校からも模擬授業やリフレクションに参加いただきました。中には、参観日の代休にもかかわらず参加された方々もいて、新学習指導要領に示された数学の授業についてしっかりと学びたい、自校でも実践したいという先生方がたくさんいました。これからも「片島中学校」が新たな学びの場となり、多くの学校と学びをつなぎ、算数・数学の学びの潮流を創っていきましょう。



※次回の授業研究会は、5月25日(金)です。